

KSKR

# だいかれん

公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会(大家連)

## 出来ることを力を合わせて

会長 倉町 公之

5月29日(日) 大家連総会を開催しました。その時のあいさつで、私は次の2点を述べました。

①「医療費助成と交通運賃割引の精神障害者への適用」に向けて、この1年間署名活動に取り組んで来たが、今年度はその実現を目指したい。

② 家族会及び大家連の地方向上のため、圏域別の活動の充実を図りたい。

①については、大阪府知事、大阪府議会への要望の出し方を工夫します。(マスコミ対策、他団体の応援など)

また、請願書(又は陳情書)を未提出の市議会・町議会については、提出して、知事と府議会へ要望を集中させましょう。

午後の代表者会議において、Nさんから、K市において市議会事務局に1人で出かけて事務手続きを教えてもらい、1市民の立場で各会派に声をかけ、請願書の採択に至ったとの感動的な報告がありました。

Sさんからは、家族会として市議会の全議員に働きかけたとの報告がありました。

なお、全国で取り組んだ62万余筆の交通運賃割引の署名については、国会で審議未了となりました。

②については、多くの家族会では会員の高齢化に伴い、動ける会員が減ったり会長の手がなないなどの悩みが出されています。

これまでの圏域交流会の経験も踏まえて、圏域ごとの会合を定例化して、大家連の役員が必ず参加する。代表者会議を各地域で開催するようなものにしてほしいですね。

### 【今後の取り組みについて】

当事者への接し方について、支援者をはじめ多くの方が「出来ないことを数え上げないで、出来ることを評価しましょう。」と言っています。

私たちの家族会活動についても同様です。

会員の皆様は、当事者の日常生活と病状への対応ばかりでなく、会員自身も精神的にも肉体的にも変調をきたすことは避けられません。

今年度は大家連の役員が2名増えました。また、電話相談員、講座委員、「だいかれん誌」編集委員も、各家族会からの協力により必要な委員が確保されました。

家族会も大家連も、出来ることを力を合わせて実行する。ゆっくりでも良い。一つひとつを実現するため、皆で出せる力を出し合って進んで行けたら良いと思います。

### 目次

◆ 出来ることを力を合わせて	1頁
◆ 総会報告・代表者会議報告	2頁
◆ 連載記事「親なき後に備える」	3頁
◆ 家族の思い	4頁
◆ 夏苜先生からアンケートのお礼	5頁
◆ 精神保健福祉講座 H28年度計画	5頁
◆ PSWのミニ知識	6頁
◆ 家族会紹介(さわ病院家族会)	7頁
◆ 乃ぎく会創立50周年	7頁
◆ 家族による家族学習会	8頁
◆ 精神保健福祉講座・本の紹介	9頁
◆ 賛助会費報告・寄付のお礼	9頁
◆ お知らせ・編集後記	10頁

# 2016年(平成28年)度 定期総会開催

2016年5月29日(日)

アネックス・パール法田坂3階第1会議室

大家連定期総会が開催されました。来賓の方々に其々最近の制度の問題、動向や家族会に期待するものとして丁寧なご挨拶を頂きました。34家族会(委任状10)の出席ですべての議案が承認され、可決されました。

- 第1号議案 2015年度事業報告
- 第2号議案 2015年度決算報告
- 第3号議案 2015年度監査報告
- 第4号議案 2016年度事業計画
- 第5号議案 2016年度予算案
- 第6号議案 2016年度新役員体制

役員体制(案)は承認され、その後臨時理事会が行われ、会長、副会長が選定され、左記の体制が可決されました。

## 新役員体制

- 会長 倉町公之 (重任)
- 副会長 林 信子 (重任)
- 理事 古元百合子 (重任)
- 理事 岸上知三 (重任)
- 理事 山本美世子 (重任)
- 理事 中村真由美 (重任)

- 理事 奥野 保 (新任)
- 理事 中桐浩子 (新任)
- 理事 川辺慶子 (新任)
- 監事 山本勝子 (新任)
- 監事 大野素子 (新任)
- 顧問 遠塚谷富美子

- 監事 和泉克子 (退任)
- 監事 奥野 保 (退任)
- 相談役 川辺慶子 (退任)

## 来賓

- 大阪府福祉部障がい福祉室 自立支援課課長 米田信也氏
- 大阪府こころの健康総合センター 事業推進課課長 高岡由美氏
- 大阪市福祉局障がい者施策部 障がい福祉課課長 西端清造氏
- 大阪市こころの健康センター 精神保健医療担当課長 小寺 誓氏
- 大阪府精神障がい者連絡会 代表 山本深雪氏

## 家族代表者会議を開催

会議は2時間の予定で始まり、その後、懇親会を実施しました。課題の内容に様々な意見が多く、定刻終了時間ぎりぎりまで話し合われた活発な代表者会議となりました。

主な内容は  
①署名活動について  
(大阪府知事に対しての請願署名は街頭活動も含めて6月末まで行う)

②大阪府、大阪市との意見交換会について  
(意見交換会の様子が議事録メモで報告された)

③大阪府議会、大阪市議会の各会派との意見交換会をもつ

④大阪府「福祉医療費助成制度に関する研究会報告書」について会長が説明

⑤家族会運営(問題点)について

国会、大阪府知事への署名運動については「家族会別一覧表」を用いて家族会ごとの取り組みが話された。各家族会は考える機会がもたえて良かった、これからも頑張っていきたいと、みなさんの熱気あふれる会場になりました。

⑥大阪府の差別解消条例(2016年4月施行)  
パンフレットを用いて説明。

その他の家族会運営の報告、他県連の家族会の取り組みなど、参考になる説明があり、有意義でした。(副会長 林)



# 親亡き後に備える

## 第1回 阪井ひとみ氏に聞く

NPO法人おかもま人居支援センター 理事

阪井土地開発株式会社 代表取締役

第10回精神障害者自立支援活動賞(リリー賞)受賞

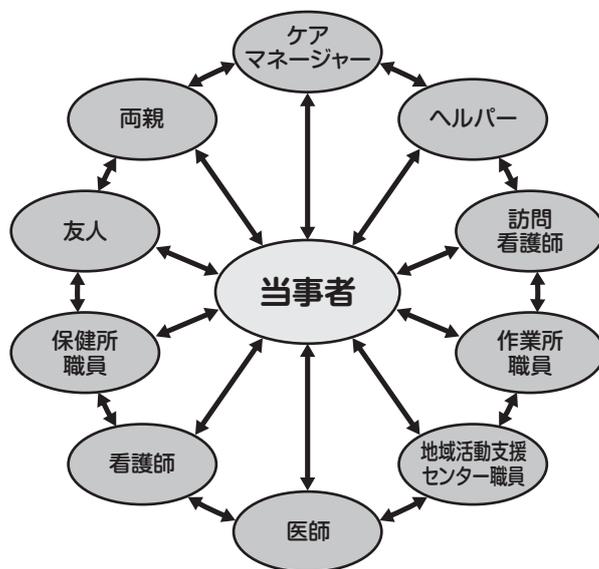
「シテイズンオブサイヤ」受賞

精神障がい者の多くは発病が思春期以降です。病気による混乱期や引きこもりに、親も訳が分からず右往左往してきました。診断が確定し本人の将来のことを落ち着いて考えるようになる頃には親は高齢になっています。精神障がい者の子供をもつ親にとって、親亡き後が切実な問題です。

今回、岡山で精神障がい者をはじめ社会的弱者500人の一人暮らしの実現と定着を支援されている阪井ひとみさんにお話をうかがいました。

最初に、一人暮らししている精神障がい者の親は健在かどうかをお聞きしましたところ、「ほとんど健在です。親御さんも自分たちがまだ元気な時に、当事者の子供が一人暮らしできてくるのを見て安心したいですよ。」というお答えでした。家族からは当事者の子供が家を離れたがらないと聞いていますがと、お話ししましたら「当事者が家を離れたがらないのは不安からで、親がいなくても安心して暮らせることが分ければ一人暮らししますよ。」

というお答えでした。それでは、阪井ひとみさんはどのような当事者の安心できる一人暮らしを支援しているのかを左の図で紹介いたします。

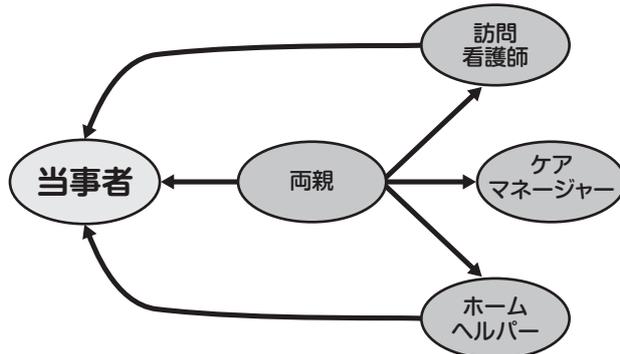


あくまで本人を中心に、本人の関係者をネットワークでつなぐ。主になる人は関係者の中で、本人の好きな人、何でも話せる支援者にする。(その支援者がいないときは、本人や家族が探す。)これを計画し実行するのはケアマネージャーの仕事なのに、家族はケアマネージャーを使えていないという指摘でした。ケアマネージャーに本人中心のネットワークを作り、本人が安心して一人暮らしができるようにしてほしいと要求すれば良いと言われていました。

又、ケア会議を行うようにして、いつも本

人のことを共有する。ケア会議を行うことは本人が何か突然困りごとがあった時にも使えるので、本人が不安になることはまずありません。支援者のメーリングリストを作り支援者が当事者の状態を共有しておくことも大事だと思えますと言われました。

現在の多くの親は支援を利用していても下の図のようになっているという指摘をされました。



このような関係では、支援を利用していても支援者同志はつながっていないし、両親が中心になっているので、当事者はいつまでも両親に依存することになりますというお話でした。

又、支援者は病院のすすめやご両親の思いで対応していませんか。両親やその他の家族と一緒に暮らしていても本人の心を十分理解していないことも少なくありません。

多くのご両親がケアマネージャーになっていますが、ご両親は支援者のひとりであり、お陽さまのように暖かく見守るだけにしないと当事者が両親に依存する関係は変わらないと指摘されました。

(編集委員 誓山)

# 家族の恩い

ペンネーム そよかぜ

18才で初めて精神科にかかり、現在32才になる娘です。何度も入院を繰り返してききましたが、何度目かの入院時の医師との出会いがきっかけで娘は変わっていききました。27才の頃です。それまでの入院は、毎日見舞いに来てほしい、夜中も電話がかかってくるという状態でしたが、その医師との出会いから、見舞いに来なくていい、電話もなし。それまでの生活が腫れ物にさわるような、母娘べつたりの「共存状態」でしたので、急に娘との関わりがなくなつた私は、心にぽっかり穴が空いたようになり、心配なのと何もする気になれないのとで、心身ともに調子をくずしていききました。

その頃、高森信子先生の講演があり「それは親としてつらいよね」「ハガキなら書いていいよ、ただし、質問はダメよ、お母さんの近況を知らせるだけ。返事はいらないうって書いてね」とアドバイスをいただきました。あれこれ聞いてしまうのは、親が安心したいが為に心配を娘に押し付けること、娘の方から見れば、信じて待つて欲しいのに信じてもらえないことだったのでしょね。

娘は1年後に退院、自立訓練を経て一人暮らしを始めました。何も連絡がないのは心配でしたが、ここは腹をくくって、信じて待つしかありません。とても辛かったです。その頃、

私は家族SST交流会と地元のわかば会で役員をさせていただくことになり、病気について、本人との関わり方について学び、会の運営でも忙しくさせていただくようになりました。それぞれの会長さんに甘えたり、時には反発したりしながら、未熟だった私は育てられ、仲間にも恵まれ、成長していききました。

そんなある日、娘から電話がありました。久しぶりに聞く娘の声でした。うれしかったです。あれこれと話しました。地域活動支援センターの人に相談にのってもらっているとか、作業所に行っているとか、びつくりでした。「お母さんも少しは成長してんでー」と言うのと、「年を重ねたお母さんは変わらんでいいねん、私が変わらなあかんねん。」「長年、右手を使ってきた人に明日から左手を使えなんて無理でしょう？お母さん、家族会の人で困っている人がいたら言つてあげて、支援センターの人、周りのいろんな人に助けてもらいつて。」ただただ感動です。娘は病気を抱え、苦しみながらもいろいろんな人と出会い、出会った人からたくさんのお話を学び、成長したのですね。

娘と離れていた数年間、未熟だった私も家族会の方達との出会いで成長し、娘は娘で病院や仲間、支援者の方達との出会いで成長していったのですね。心から感謝です。これからも良い時も悪い時もあると思います、でももうそんな先の心配はしたくありません。私の座右の銘「その時はその時！」うーん、でも、やっぱり心配すると思います、「その時はその時！」と自分に言い聞かせて前を向いて生きていきます。

## 夏莉郁子先生(やきつべの径診療所)よりアンケート調査のお礼

昨年の7月に精神福祉講座で講演して下さった夏莉先生よりアンケートの依頼があり、大家連の家族でアンケートを出された方も多いと思います。先生からアンケート調査のお礼と、進捗状況の報告がありました。要約して掲載します

アンケートは7000通を超える回答がありました。皆様のご協力の大きさを実感しており、心からお礼申し上げます。行政などの公的組織によるものでない調査に対してこれだけ広い地域の多くの声が寄せられたことは大きな意味があると考えられます。

皆様のご協力に支えられたこの調査には、日本の精神医療や医学教育を変えたいという願いが込められていると認識しています。この結果を学術的に意義のある形にまとめることができれば、当事者、ご家族、医療者だけでなく行政も含め広く社会に伝えることができます。この資料は、医学教育や、精神科医療の改善にとどまらず、「回復とは何か」を社会の皆で考えるきっかけとなり、社会の仕組みを変える力にもなると思っています。

現在、回答いただいたデータの入力作業を終了し、質問事項の回答と自由記述について解析作業をすすめております。きちんとした結果が明らかになり、調査の結論が公表に耐えうる形になりましたら、ホームページおよび各協力団体を通じてご報告させていただきます。

# 2016年度(平成28年)精神障がい者 社会参加支援事業精神保健福祉講座

実施日時	テーマ	講師 所属	場 所
① 5月21日(土) 13:30～	精神障害者における園芸療法 ～土と植物の可能性～	京都大学名誉教授 日本精神障害者リハビリテーション 学会理事 日本園芸療法学会理事 「人と作 業・生活」研究会主宰 山根寛先生	アネックスパル法円坂 1号室
② 6月11日(土) 13:30～	みんなで支える薬物治療 講演後お薬相談	大阪府病院薬剤師会 宮原佳季氏 天正政美氏と薬剤師4人	ドーンセンター 5階 特別会議室 4階 大会議室
③ 7月9日(土) 13:30～	障がい者差別解消法などの理解 (テーマ未定)	西宮市権利擁護支援センター 運営委員長 北野誠一氏	アネックスパル法円坂 1号室
④ 8月13日(土) 13:30～	当事者研究 当事者の地域活動&当事者研 究の実際	浦河べてるの家 向谷地生良氏 メンバー 3名	エルおおさか 6階 大会議室
⑤ 9月10日(土) 13:30～	精神医療と人権 差別を見抜き人権を守るために	認定NPO法人 大阪精神人権センター・看護師 有我譲慶氏	ドーンセンター 5階 特別会議室
⑥ 10月8日(土) 13:30～	フィンランドの取り組みに学ぶ ほか	特定非営利活動法人リカバリー サポートセンターACTIPS 訪問看護ステーションACT-J所長 看護師・保健学修士・心理学博士 下平美智代氏	アネックスパル法円坂 1号室
⑦ 11月12日(土) 13:30～	障害者年金について 新しい情報 障害認定の地域格差	年金研究会 『障害年金請求援助マニュアル』 編著者 高橋芳樹氏	※アネックスパル 法円坂1号室
⑧ 12月10日(土) 13:30～	地域で暮らす	九州産業大学国際文化部 臨床心理学科 倉知延章氏	※アネックスパル 法円坂1号室
⑨ 1月20日(金) 13:30～	家族が求める家族支援 体験を通して語る経験交流会	コーディネーター 日本福祉大学 青木聖久氏 家族 数名	※アネックスパル 法円坂1号室
⑩ 2月18日(土) 13:30～	地域で自分らしく生きる	コーディネーター 講師 桃山学院大学 栄セツコ氏 当事者 3名	※アネックスパル 法円坂1号室

※印は変更の可能性もあります。ご了承ください。

## PSW(精神保健福祉士)の

## ミニ知識

ご存知ですか、精神保健福祉士のお仕事

一般社団 大阪精神保健福祉士協会 会長  
阪南病院 リハビリテーション部 部長

平 則男



大阪精神保健福祉士協会(以下協会とします)の平です。今回、「たいかれん誌」ミニ知識のコーナーを担当させていただきます。どうぞよろしくお願ひします。

協会は昨年に創立45年を迎えました。精神保健福祉士は全国に71,000人、大阪府下では5,100人の資格者ができましたが、まだ歴史が浅く、ややもすれば、精神保健福祉士ってどんな仕事をする人ですか?という声も少なくありません。

平成21年、厚生労働省が家族の現状について行った調査で「信頼できる専門家に相談できるようになったのは本人が病気になるまでからどれくらい経過してからですか」という質問がありました。その結果、6ヶ月未満24%、6ヶ月以上3年未満26%、3年以上が31%、

出会っていないが19%という回答でした。専門家の相談窓口には保健行政、医療、福祉、介護等の分野がありますが、信頼できる相談者とは親身になって窮地にある家族が抱える悩みや直面する生活の課題に手を携え、力を尽くす援助者と考えます。

ところが、家族が危機的な状況の下、信頼できる専門家へたどり着くのに3年もしくは出会うこともない家族を含め5割いるという事実には驚きです。その間、家族が不安を抱えたまま相談を受ける機会に巡り合えず医療や保健、福祉制度から孤立していた状況にあります。続いて、「どのような時にどのような相談支援がほしいか」という質問に対しては、次のような回答(複数)がありました。本人の自立の準備の働きかけ62%、診察時に病気の治療62%、回復の見通しをきちんと説明して、本人の病状が悪くなったときの訪問、危機的状況への支援53%というものでした。この回答から本人への自立への働きかけに6割以上、危機的介入の支援が5割以上の家族が相談の必要を求めています。以上から切実な悩みを抱える本人や家族が相談につながりやすい仕組みや手段を整えていくことが今後の課題となっています。

このような実情を踏まえ、私たち協会が精神保健福祉士の専門性や役割について本人や家族、関係者に対して、分かり易く丁寧に伝えていく必要があることを実感いたしました。さて、精神保健福祉士は社会福祉学を学問的

基盤として、精神障がい者の抱える生活問題や社会問題の解決のための援助や、社会参加に向けての支援活動を通して、その人らしいライフスタイルの獲得を目標としています。協会は精神保健福祉士の専門性や資質の向上のために充実した研修活動を行うことや生涯にわたり自己研鑽を積み重ねてきました。このたびの誌面を通じ、保健・医療・福祉・司法・教育など多岐にわたる専門職としての役割を家族会の皆さまや社会に向け発信していきたいと思ひます。

皆様にとって身近な専門職として活きた情報をお届けできれば幸いです。

.....  
大家連理事会、編集委員会より

昨年度まで連載されました、遠塚谷さんのミニ知識はいったん終了し、今年度よりPSW(精神保健福祉士)のミニ知識を連載します。執筆は現場第一線で当事者、家族の支援に当たっているPSWにお願いすることになりました。支援者の立場から見ると、家族が知っていてほしいと考える福祉関係のミニ知識をお願ひしています。

第一回は大阪精神保健福祉士協会の平則夫氏より、ガイダンスとして精神保健福祉のお仕事についてと精神保健福祉士の課題等について書いていただきました。

読者の皆様からも、こんなことが知りたいということがありましたら、是非、大家連までお寄せ下さい。

# 家族会紹介

## 「さわ病院家族会」

### 団体賛助会員の家族会

設立 1991年  
会員数 60名

2月にさわ病院家族会例会を訪れました。ワンルームマンションの一室で、お茶とクッキーを用意されて、吉岡会長と3名の家族の方が当事者の様子や家族のかかわり等の情報交換をされていました。親密でこじんまりした感じの家族会だという感じでした。さわ病院家族会の様子をお聞きしていましたら、ドアチャイムがなつては次々と家族が入ってこられました。その日は13名の家族がいらつしゃって、お部屋いっぱいになりました。

それぞれお話がはずむ中、「新しい方が来られていきますので、お話を聞きましょう。」と声かけがされました。新しく来られた方が日ごろの様子や困っていることを話され、皆がじっくり、その話を聞いていました。新しく来た家族への声かけのタイミングの良さ、皆が話しをやめて新しい家族の話をさえぎらずに最後まで集中して聴く姿勢、話し終わつた後の体験を交えた的確なアドバイスの数々等、見本になるような成熟した家族会の姿でした。新しく来られた家族の質問に次々応えられて、どこに相談すると良いか応えていらつしゃい

ましたが、その中で、病院の家族会だけでなく地域の家族会も紹介され、病院の家族会と地域の家族会の両方に入られると良いですとお話しされていたのが印象的でした。

アドバイスをされていた、さわ病院家族会の米田さんは元、精神科の看護師さんで吉岡会長と共にこの家族会を支えていらつしゃる方でした。的確なアドバイスが納得です。お聞きしますと、さわ病院家族会の例会は月3回でしたが最近月2回にしたということですが。集まる人数は1〜2人のときもあれば、数十人の時もあるということです。大半が地域家族会と両方の家族会に参加しているので、地域家族会の予定と重なった時は人数が減るそうです。人数が1〜2人の時も、必ず来て支える縁の下の力持ちの存在が大きいと思いました。又、会長は家の電話も携帯電話もオープンにされて、誰でもすぐに連絡がつくようにされているそうです。

羨ましいことにそのマンションの一室は澤院長が家族会のために提供していて、家族会は年間4万円のみ(水光熱費程度)を支払っているだけだそうです。そのため、家族は365日その部屋を利用でき、家族のサロンのようになっているそうです。

(編集委員 誓山)

## 乃ぎく会

### 五十周年を迎えました

大阪精神医療センター家族会(乃ぎく会)は、発足五十年となりました。

昭和四十年(1965年)有志が家族の力を結集すべく、初めて「会」をたちあげられたのです。

現在は府下で六十近くの家族会が存在します。その内、大家連に所属しているのは四十四家族会です。当時は「会」組織そのものが手探りの状態であったと推察され、先達のご苦勞に敬意を表すところです。

その五年後、高槻ほか府下家族会と連携して、大阪に連合会を発足させました。現在の「大家連」の中核となつてきたのです。精神医療福祉施策の充実に求めて、家族が声を上げ続けてきた半世紀です。その後、続々と各地に家族会が誕生し、作業所や福祉センターなど、日常の居場所作りも進んで来ましたが、まだまだ十分とはいえません。

「精神分裂病」から「統合失調症」への呼称変更は、家族・当事者の心をいかに和らげてくれたことか、これからの五十年、もっと住みやすい社会環境に大きく変化を遂げていることを期待して共に家族力を培っていきましょう。

(編集委員 奥村)

# 家族による家族学習会

理事 川辺慶子

大家連では、現在6か所で開催しています。

2015年度から阪本病院、国分病院において、全国に先駆けて病院での「家族による家族学習会」を取り組んでいます。東大阪地域で、家族会と病院、関係機関との地域連携の取り組み基盤があったことや、大阪府精神科医療機関療養環境検討協議会という行政、病院、家族会、当事者など協議する場があり、家族を応援していこうという雰囲気がありました。2病院長もその姿勢と地域に開かれた病院を目指していく方針を持っておられたので、協働して進めることができました。家族会の出前講座として、社会貢献の一翼を担えると考え取り組みました。

2016年度は、さわ病院においても取り組みます。

「家族による家族相談窓口」を坂本病院として設置し、2名の家族相談員が応じています。にぎやかな集いの場になって笑顔がたえません。

## 家族による家族学習会とは

「家族による家族学習会」とは、家族が元気になることを目的にした家族支援プログラムです。精神疾患を患った人の家族を「参加者」として迎え、同じ立場の家族が「担当者」としてチームを進める、小グループのプログラムです。

リーダーシップを持つ一人が取り仕切るのではなく複数で役割分担して、すすめます。そうすることで、急に誰かが抜けても運営可能な

のです。さらに大きな特徴として、「体験を語り合うこと」を大切にしています。病気に対する正しい情報とともに、家族自身の体験をお互いに語り合い、家族同士の支えあいの場を提供します。

家族会につながらずに孤立している家族、特に発症間もない人の家族を主な対象としますが、家族会員間の学習にも活用できる方法です。

「じょうずな対処・今日から明日へ」テキストの輪読ですすめていきます。毎月1回5か月にわたって、同じメンバーで学び合いました。回を重ねるごとに笑顔が出て、孤立感が薄れ、つながりが深まってきました。終了時には、次のような感想が聞かれました。

### 参加者家族の声「私だけではない！」

- ・ 同じ病気を持つ担当者家族や参加者のお話は、どれも私がこれから娘と共に歩んでいく道しるべだと強く思いました。帰りはいつも足取り軽く気持ちも明るくなりました。
- ・ たくさんの体験談を聴くことで、本人の行動を理解することができました。家族対応について、とても参考になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。

### チームワークでの家族支援

〈吉川富子〉

回を重ねるたび表情が変わられて、少しずつ明るく元気

になっていかれる様子がわかり、本当にうれしかったです。

私たち担当者は、毎回ふりかえりをし、参加者の皆さん一人一人の思いをきちんと受け止められたか・出し切れなかった人はいなかったかまたテキストの内容がしつかり伝えられたかなどの確認をしてきました。私は初めてで、とても不安でしたが、互いに助け合いながらチームとして一つにまとまって進めていけたように思います。

私自身も皆さんのお話を聞かせてもらう中で、自分や自分の家族を見直すきっかけにもなったと思います。

そして互いにそれぞれの体験から学び合えるという、家族による家族にしかできない支援の在り方なのだと思います。新たな出会いを楽しみに、一人でも多くの人が元気になってもらえたらなあと思っています。

一人で悩んでいませんか? 同じ家族の立場で相談員があなたの悩みをお聞きます。

**家族相談窓口**

月一回(第三木曜日)  
2月18日(木)  
3月17日(木)

午前10時から午後4時まで

家族相談窓口 外来診察室  
外来待合室  
WC  
玄関

家族同士の話から、それぞれの体験談に共感したりさまざまな情報を共有したりします。疑問や不安を解決する糸口につながり、お気持ちの面でも今までの負担が軽減され、心に少しでも余裕ができるきっかけになったりすればいいと思います。どなたでもご参加ください。

相談員  
● 菊留利江 (大阪府東大阪電話相談員)  
● 川辺慶子 (公益社団法人大阪府精神障害者家族連合会)

お問い合わせ: 医療法人聖和錦秀会 阪本病院  
〒577-0811 東大阪市西上小阪7-1-7  
家族相談窓口担当 夫(フ)  
TEL06-6721-0344 FAX06-6730-3651

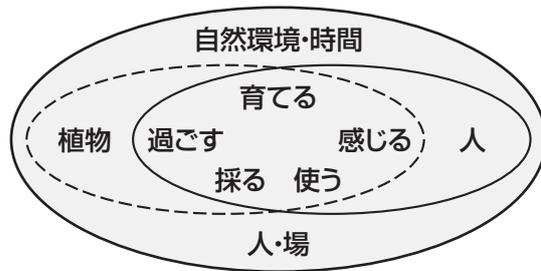
医療法人聖和錦秀会 阪本病院  
公益社団法人大阪府精神障害者家族連合会

精神福祉講座①

精神障害者における園芸療法

本年度最初の講座は京都大学名誉教授の山根寛先生にお願いした。お話で特に私が感じたところを報告します。

先生はある精神病院で長期入院の実態に疑問を抱き、入院は出来るだけ短くし、社会生活を通してのりハビリに取り組むようになった。その際、患者と療法士の間には植物があった方がいと考えた。



人と植物との関係には育てる・過ごす・感じる・採る・使うの関係があり、これを図式化された。この要素を上手く使うことにより、体の機能を改善するなどのりハビリが行われる。この五つの要素について詳しく説明されたが、私が印象に残ったのは、**過ごす**である。

これは植物自身の成長と共に過ごすことである。つまり、植物の生育・天候の変化・時の流れ・季節の変化など人間の思い通りにならないことに身を委ねることになる。病気になる、治そう治そうとするのは、まるで年を取ることと逆らおうとするに似ている。病を治そうと生きるのではなく、病とどう生きるか、つまり

それは実存的な受容体験というべきものである。これは我慢や窮屈な生き方でなく、真の幸せであると言いたいのだろうと思った。

山根先生のごことは「ひとと作業・生活」研究会で検索すればネットで見られるが、人柄が素晴らしいので、ぜひ生の講演を聴いて欲しいと思った。  
(理事 岸上)

本の紹介

「あしたの空の機嫌がよかったら」(詩集)

柏原 充侍

竹林館 定価2000円+税

こころは 見えない風

詩人・柏原さんが世界に

言葉の花を蒔くとき

美しい風が見える

(尾崎まこと)

柏原さんが学生時代に神経を病んだ頃、入院先の「さわ病院」で書きとめたものをもとに選定し出版した詩集です。病んだことで、過去の幸せな思い出や春夏の自然の美しさはより鮮烈さを増し、人生の哀しみはより深く、生きることの意味をどこまでも思索し、この詩人の世界は研ぎ澄まされた純粹さで満ちていて胸を打ちます。  
(編集委員 誓山)

平成28年度の賛助会費年会費をいただきました。ありがとうございます。



団体賛助会費(診療所関係)

(101万円/年)として

さわ病院家族会(豊中市)

500

神戸市精神障害者家族連合会(神戸市)

300

秋吉(ひこうせん)(中央区)

100

個人賛助会費(103千円/年)として

33人分

3300

寄付のお礼

交通運賃に関する請願、大阪府医療費助成・運賃に関する要望の署名活動に対して多くの皆さまから寄付を頂きました。大変、ありがとうございました。多くのお礼を頂いております。

寄付は請願書を国会に提出するための交通費、署名用紙印刷代、封筒代、郵送代等に使用させていただきます。

家族SST交流会・堺のぞみの会・みどり会作業所・西ひかり家族会・大東市地域活動支援センター・高石あけぼの福祉後援会・乃ぎく会・わかちあう会・泉南のぞみ会・大聴協・他個人49名

合計 160,990円と切手8,115円

5月27日現在

## 「みんなねっと」購読しませんか

精神障害者とその家族を支援する「みんなねっと」の活動を応援してください。

「月刊みんなねっと」は賛助会費を振り込んでいただくと、毎月お手元に届きます。個人で申し込まれる場合は、郵便局に備え付けの振込用紙で(口座番号)「00130-0-338317」(加入者名)「みんなねっと」宛てにお振り込みください。購読費は年間3600円です(年度の途中で入会した場合は、4月号よりさかのぼって送られてきます)

団体の購読費は年間3600円ですが、納めていただくのは3000円で、600円は団体で使ってください。

大家連は  
こんな活動をしています

- \* 各家族会と力を合わせて
- \* 家族の仲間作り
- \* 毎日の電話相談事業
- \* 講座の開催
- \* 『だいかれん』誌の発行
- \* 国・大阪府・大阪市などへの  
要望活動

## ひとりで 悩んでいませんか？

心の病の患者さんを抱えている家族の方  
ひとりで悩んでいないで…  
あなたはもう  
ひとりぼっちではありません！  
同じ家族の立場で  
電話相談員があなたの悩みを  
お聞きます。



## 大家連 電話相談室

☎ 06-6941-5881

電話相談日

月～金 10:00～15:00

(祝日・お盆・年末年始は休みます)

4月。大家連事務所からの帰りに、難波宮跡公園で思いがけなく、しろつめぐさの花畑と出逢いました。気持ちは幼い頃に戻って、思わずお花を摘みました。カバンの中に春の香りをいっぱい束にして家に持ち帰り、花飾りをつくりました。

みなさんはしろつめぐさには白色とピンク色があるのをご存じですか？白色ばかりだと思っていた私はピンク色のかわいらしさに感激しました。

春の日のちよっぴりステキな寄り道をした私ですが、心に少女の時の風が吹いた様な楽しいひとときでした。

□ □ □ □ □ 編集後記 □ □ □ □ □

(編集委員 一階)



平成28年度の共同募金配分金57万円が決定しましたのでお知らせします。  
共同募金の寄付による配分金でだいかれん誌の発行が成り立っています。  
寄付下さった皆さまに心よりのお礼申し上げます。  
又、会員の皆さまには赤い羽根共同募金へのご協力をお願いします

編集人 公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会 会長 倉町 公之  
連絡先 〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35 アネックスパル法円坂 (A棟1階)  
Tel 06-6941-5797 Fax 06-6945-6135  
ホームページ daikaren.org だいかれん で検索もできます

振込先 郵便振替 00970-4-72221 公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会

定 価 1部100円 (大家連家族会費には購読料を含む)

発行人 関西障害者定期刊行物協会  
大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4階